

## 【子どもと向き合う意味】

大分市 大西 正久さん

元々子どもが好きで、妊娠中の定期健診には休みを取って全て妻と一緒に行きましてし、出産にも立会いました。生まれてきた子を抱いた時、父親としての自覚がふつふつと湧いてきました。

家族が増え充実した生活、私の理想の生活が始まりました。

オムツ替えを始め、積極的に育児に参加するように努めましたし、またそれは新鮮で充実した日々でした。

しかし子どもが成長するにつれ、少しずつ変化が現れました。

身体的な成長は申し分ないのですが、ハイハイを始めるのが遅かったり、夜泣きがひどかったり、しゃべりはじめが遅かったり・・・

2歳頃から、頻繁にパニックを起こすようになり、その度に夫婦で対応に追われました。パニックは昼夜をとわず、眠れない日々が続きました。

しかし私は（子育てとはこういうものだ。成長の遅れも個人差だ）と楽天的に考えていました。

情緒障がいがあったのは、3歳児健診でした。

妻はうすうす気が付いていたようです。

3歳児健診で指摘を受け、保健士さんの家庭訪問の後、保健所で心理の先生に診断して頂きました。そこでの結果は自閉症との事でした。先生と話をしている間、妻は泣いてました。診断結果がショックだったからではなく、育てにくさの原因が解ったこととこれからの育児の方向が見えたことの安心感からだったそうです。その後の検査で、ADHD（注意欠陥多動性障がい）と判明しました。

妻の涙を見て、私は今まで子どもや妻の何をみていたのだろう。子どもに関わることが、結局は自己満足で終わってしまっていて、妻や子どもと正面から向きあっていなかったのではないかと反省しました。

その当時、長女は幼稚園に行っていましたが適応出来ず、脱走、パニックもあり殆ど教室に入らず、園庭の隅で1人で遊んでいました。子どもにとって、この幼稚園での日々はとてつらいものだったと思います。無理に幼稚園に通わせた事に対する、自責の念が未だに私の心にあります。

幼稚園を3ヶ月で辞め、デイサービスの利用と療育を始めました。夫婦で情緒障がいについて勉強して、色々な施設の見学に行き、色々な人の話を聞きました。家庭での接し方、パニックになった時の対処の仕方、月2回の療育センターでの訓練など、やらなければいけないことは沢山ありました。当時を思い返した時、不思議と楽しい思い出しかありません。恐らく、妻が話していたように、子どもと私たちの進む方向が見えてたからではないかと思います。また子どもに関わってくれた沢山の方との良い出会いが私たちに希望を与えてくれたのです。

デイサービス利用の半年後には、保育園に通うことになりました。

保育園での2年間で、子どもを劇的に変えてくれました。パニックも殆どなくなり、言葉もちゃんと出るようになりました。また人との関わりも濃くなり、お友達と一緒に遊べる

ようになりました。子どもの成長や療育の成果もあったのでしょうが、何よりもADHDの特性を理解してくれて、適切な対応をして頂いた保育園にはとても感謝しています。

小学校の選定にも紆余曲折ありましたが、隣接校区の特別支援学級に通うことになりました。入学式から数日後、子どもが学校の父親部の入会申込書を持って帰りました。妻は用紙を私に見せ、当たり前のように「入るんでしょ」と言いました。

今の子どもの成長は、自分達の子育てのみでは到底なし得なかったと思います。そこには今まで関わって支えて下さった多くの方達のお陰だと思えます。今度は私がそういった関わりを持ちたいと思っていましたし、今後、自分の子どもが良い学校生活を送る為には、周りの子ども達も含めてのことだとの思いから父親部に入会することにしました。

小学校は私が子供を介して社会に出るきっかけになりました。子どもが2年生になった時にはPTA副会長に選任されました。小学校の読み聞かせサークルにも参加させて頂いています。(男性は私1人ですが・・・)

4年生になった子どもは、ほとんど休まずに校区外から歩いて学校に通っています。友達も増え、充実した学校生活を楽しんでいます。勉強も何とか頑張っています。

昨年、大分県が主催した「おおいたパパくらぶ」に参加させて頂きました。

そこで知り合ったパパ達と交流して、メンバーの有志で父親の読み聞かせサークルを作り休日を利用して活動しています。父親部の活動や、大分市おやじネットワークでの活動等父親の子育てに関する活動にも参加しています。忙しい日々ですが充実しています。この数年でパパ友やママ友が随分増えました。皆素晴らしい仲間です。

家庭では4年生と1年生の我が子に就寝前の読み聞かせと、毎朝の弁当作りやアイロン掛けなど育児、家事参加を楽しみながら行なっています。

子どもの将来に不安が無いとは言えませんが、父親である自分が前向きに社会と子ども達に関わっていく事が、自分の子ども達に明るい未来を残せるのではと思っています。

今後も紆余曲折ある子育てになると思いますが、出会いとつながりを大事にして子ども達と向き合っていこうと思います。